

教育民生委員会 行政視察報告

4月16日から18日にかけて、委員8名、事務局随行者1名、執行部1名で、東京都文京区社会福祉協議会、埼玉県志木市立いろは遊学館、神奈川県横須賀市を視察してまいりました。

■東京都文京区社会福祉協議会

「文京ユアストーリー」を中心とした文京区における終活支援事業について社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターが、複数の高齢者から「親族がそばにいない。自分の葬儀はどうなるのか、弁護士や民間団体は信用していいのか戸惑いがある。」という相談を受けたことがきっかけとなり取組が始められました。



▶東京都・文京区社会福祉協議会

- 事業の対象者は、原則70歳以上
 - 区内在住者
 - 身近に頼れる親族がいない
 - 契約能力がある
 - などの要件を満たす方とのこと。
- これらの方が、元気なうちに自らの選択で契約し、社会参画支援及び定期連絡・訪問を行い、生活相談にのり、必要に応じて役所のサービスや窓口を案内をします。
- その他、利用者からの預託金を使ったサポートとして、入院、入所、転居時などに

身元保証人の代わりとなる機能を提供する、判断能力の衰えがみられる場合には、利用者の意向に沿って、後見制度や介護サービスを紹介し、亡くなった後には、契約内容に沿って葬儀・事後処理・家財処分などの支援を総合的に行うものであるとのこと。地域の事情に応じた事業内容ではあるものの、参考になる部分も多くありました。

■埼玉県志木市立いろは遊学館

学社融合施設での事業実施について

隣接する3つの施設（志木小学校・志木公民館・志木図書館）は、それぞれ「老朽化」「耐震改修」が問題になっていましたが、「土地の有効活用」と「ランニングコストの抑制」が課題となっていました。

当時の教育長の「これからの学校教育は、地域の協力のもとに」という考え方に基つき、『合築ではなく複合施設を』『創る』というビジョンを実現するため、平成9（1997）年、関係課によるプロジェクトチームを編成し、市民検討委員会を発足させ、意見集約などを進め、平成15（2003）年3月に学社融合施設として竣工したとのこと。学社融合施設において期待できる教育的効果としては、次のようなものがあげられるとのことでありました。

- 地域ぐるみの教育

↓社会性の醸成
（周囲の大人を信用する土壌の醸成）

○「子どもたちを地域で守り育てる」意識高揚への期待

↓地域コミュニティが学校を創り、学校が地域コミュニティを創る。

○施設の特徴を生かした教育効果

↓普通教室のオープンシステム化により多様な教育活動が実践可能に

↓一般市民が学校の特別教室を利用、休館日に児童がいろは遊学館の部屋を相互に利用することで、学校施設開放の可能性が拡大

一方、課題としては、安全確保の問題があり、「防犯カメラの設置」「警備員の常駐」などの対策を講じているとのことでした。今後の公共施設整備において参考になる内容を多く含んでいました。

■神奈川県横須賀市

終活支援事業について

横須賀市においては、平成5（1993）年から引き取り手のない遺骨が増え始め、平成15（2003）年から急増したとのこと。

その実態を調査したところ、数が増加しただけではなく、身元が判明している市民の遺骨が増加しているという問題が明らかになったとのこと。

これらの身元が判明している方は、生前から孤立している場合が多いことが分か



▶埼玉県・志木市立いろは遊学館

ったことから、2つの終活支援事業の実施を検討することになったとのこと。

「エンディングプラン・サポート事業」は、申請された方の普段の相談に応じたり、毎月の電話による安否確認、3〜4か月に1度の家庭訪問を行ったりすることです。また、協力葬儀社との契約を仲介することで納骨まで寄り添って見届けるというものでした。

エンディングプラン・サポート事業登録後、死亡に関して無縁化を2割予防する効果があったとのことでした。



▶神奈川県・横須賀市

「わたしの終活登録事業」は、元気なうちに安心につながる終活情報を市に登録するものであり、本人の負担なしで、市が側面的な支援を行うものであり、万一の場合には、警察や病院などからの問い合わせに市が代行して回答するというものでした。

いずれの事業も「民業の下支え」という位置づけを取りつつ、市民生活の安心の確保を図るものであり、参考とすべき点が多くありました。

■視察を終えて

今回の視察事項については、今後の委員会の取組、提案に生かしていきたいと思えます。